

# City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか？身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS  
で検索

## MONTHLY OF TOPICS

### 茨木の魅力を発信 移動型市場「いばらきマルシェ」

市全域の約半分が山間地にあたる茨木市。豊かな自然の中で作られた農産物などを市街地へ届ける移動型市場「いばらきマルシェ」が8月から行われている。主催する「茨木 commons」を立ち上げた一人、藤井茂男さんは「山と町がつながるきっかけになれば」と話す。

2016年から、茨木市大池で珈琲専門店を営む藤井さん。焙煎士として20年以上の経験を持ち、市北部の忍頂寺に焙煎所を構える。commonsのメンバーは、もともと藤井さんの店に通う人たち。夜はバーとして営業する店にグラフィックデザイナーや農家などさまざまな業種の人が集まり、町づくりに

ついて語り合うようになった。

昨年4月にはコロナ禍で打撃を受ける地域のために、茨木専門の宅配サービス「イーバーイーツ」(現在宅配は終了)を立ち上げたり、市長選では、投票に行く市内の加盟店で割引サービスなどが受けられる「選挙割」を実施したりするなど、これまで地域活性化のための取り組みを実現してきた。

「いばらきマルシェ」は、commonsの代表を務める高橋勝幸さんの提案で、分断されがちな市街地と山とをつなぐための仕組み作りとして始まったもの。山間地で作られた野菜や、平飼卵などを1.5トントラックに乗せ、週に1回、市内の3か所を周る。



(左)茨木 commonsの藤井茂男さん(たたらば珈琲 店主)と(右)茨木 commons代表の高橋勝幸さん

販売場所には近所の高齢者や家族連れが訪れ、半分以上がリピーターだという。その日の朝に収穫された野菜は「新鮮でおいしい」と好評。地元人気店の国産小麦と天然酵母を使ったパンは毎回完売し、後日「マルシェで買っておいしかったから」と店に客が訪れることもあるという。

今後は、より本格的に車両を地域で循環させ、市と連携しながら地元の食材や名産品をどこでも購入できる仕組みを作る予定。地元のものを消費してもらうことで「地産地消」「食品ロスの削減」といったSDGsにつながる考え方も広げたいという。高橋さんは「茨木にはおもしろい店や楽し

い人がたくさんいる。マルシェを通してまずは茨木の魅力を知ってもらえたら」と話している。

#### 〈「いばらきマルシェ」開催情報〉

- 毎週火曜
  - 開催場所
    - ・イバラコ広場(茨木市駅前4-7-50):12時~13時
    - ・たたらば珈琲大池店(茨木市大池1-14-40)
    - ・駐車場:13時半~14時半
    - ・岩倉公園(茨木市岩倉町2):15時~16時
  - 取扱商品(仕入れ状況により異なる)
    - 野菜各種、平飼卵、
    - はちみつ(すべて茨木産)、
    - 珈琲豆、パンなど
- ※詳細は「いばらき commonsファクトリー」インスタグラム(ibaraki.common.factory)で確認できる。



## SOCIAL

### 門真市駅から南に4駅延伸 モノレールと近鉄の乗換えが可能に

大阪モノレールは2029年の開業を目指し、門真市駅から新設する瓜生堂駅(新駅の名称はすべて仮称)の約8.9kmの区間の延伸事業を実施する。延伸により大阪の都心部から東西方向に運行している4路線と新たに乗換えが可能になる。まず「門真南駅」は大阪メトロの長堀鶴見緑地線、「鴻池新田駅」はJRの学研都市線、「荒本駅」は大阪メトロの中央線と近鉄けいはんな線、「瓜生堂駅」は近鉄奈良線とそれぞれ乗換えが可能になり、利便性の向上が期待できる。

現在の計画では、延伸区間を17分、大阪空港駅から瓜生堂駅までを55分で結ぶ予定である。すでに(仮称)瓜生堂車両基地の整備工事が始まっているほか、今後は

駅舎の建築工事や軌道桁(車両が走る線路)の製作・架設工事も着手するとしている。



(左上)「Slapphappy Series」(株式会社トゥームストーン)  
(右上)「Soap Toilette(ソープトワレ)」(株式会社大阪エース)  
(左下)「こども向け足踏み式消毒スタンド」(株式会社三陽電設)  
(中央下)「純銅たき出しランブレード」(TSUCHIME 1.2)シリーズ(山辺板金工作所)  
(右下)「吉祥文様 真鍮柄小物」(ランコーポレーション)



## SOCIAL

### 令和3年度の 「摂津優品(せつつすぐれもん)」選出される

摂津市と摂津市商工会が一体となり取り組む摂津ブランド認定制度、「摂津優品」の認定式が8月31日に執り行われた。これは一定基準を満たせば「ものづくりのまち 摂津」が誇る商品として認定する制度で、市内の中小企業を応援するプロジェクトだ。「摂津市は人口約86,000人、面積14.87km<sup>2</sup>と小さいながら地の利を活かし、多くの事業所が発展してきたモノづくりの街で、「匠」の企業が多く、その匠の技が

光る5品が選ばれた」と、森山摂津市長の挨拶から認定式は始まった。既に認定済みの12商品に加え、5回目となる今年度は5商品が新たに認定され、森山市長とともに摂津市商工会の中川廣司会長から認定証の交付と記念品の授与がなされた。

摂津ブランド認定委員長の岩橋さんは「いずれも優れた技術力が発揮された、生産者の想いが伝わるのユニークな逸品だ」と総評した。

## SOCIAL

### 茨木市 キャッシュレス決済で 最大20%還元 10月1日~31日まで

茨木市は、10月1日からキャッシュレス決済ポイント還元事業「ええやん茨木!お買い物で応援キャンペーン」を実施する。市内対象店舗で購入すると、キャッシュレス決済利用者にポイントの還元を行うもので、新型コロナの影響を受ける市内の中小規模店舗での消費の喚起と、非接触型キャッシュレス決済の普及促進の2つを目的としている。付与上限は1社あたり3,000円相当

で、期間中の付与上限は4社以上の利用で最大12,000円相当。つまり1決済最大で、15,000円の買い物で2,000円分のポイントが還元され、期間中最大で60,000円の決済で12,000円分のポイントが還元されるということだ。詳細は茨木市のホームページで確認できる。



## SOCIAL

### 太陽ファルマテックが新厚生施設着工 防災・避難施設としても活用予定

太陽ファルマテックは、大規模災害発生時に、高槻市内にとどまる帰宅困難者に対し、本社の一部を一時滞在施設として提供し、迅速な災害対策に協力・貢献することを定めた「災害時における帰宅困難者の受け入れ等に関する協定書」を、2021年2月に高槻市と締結。帰宅困難者を最大100名、最長3日間受け入れるとしている。同社は2019年秋、太陽ホールディン

クス株式会社の医薬品事業会社として高槻市を本社(高槻市明田町4-38)に創業。この本社敷地内に、新たに厚生施設をオープンし、食堂・更衣室・体育館・トレーニング室・研修室・入浴施設などを備える。災害時には従業員や地域住民、帰宅困難者向けに、避難施設として開放する予定。竣工は2022年8月。



## SOCIAL

### 中小企業 フリーランスに影響する インボイス 10月1日から登録が始まる

消費税10%への引き上げにともなって、2023年10月1日からインボイス制度が導入される。インボイス制度とは、仕入税額控除(課税売上から課税仕入に関する消費税を控除すること)を受けるための新たな制度。要約すると仕入先が消費税を納めていることの証明制度といえる。導入後、仕入先が消費税を納税していることを請求書や領収書などで証明し、それに基づ

いて消費税の仕入税額控除を行う。インボイスに登録の際、免税事業者は課税事業者になるかどうかの選択をする必要もあるため、事前に確認しておきたいところだ。登録申請は今年10月1日から。中小企業やフリーランスに大きく影響するインボイス制度。国税庁は早めの登録を促している。詳しくは国税庁のホームページの確認を。